

## 第三者評価結果シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

### ①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会
------------------

### ②評価調査者研修修了番号

sk15075
sk15076
s24419
神機構-456

### ③施設名等

名称：	高風子供園
施設長氏名：	高橋 理恵
定員：	51名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	
【施設の概要】	
開設年月日	1949/6/25
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人白峰会
職員数 常勤職員：	26名
職員数 非常勤職員：	9名
専門職員の名称（ア）	心理士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（イ）	家庭支援専門相談員
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（ウ）	児童指導員
上記専門職員の人数：	8名
専門職員の名称（エ）	保育士
上記専門職員の人数：	19名
専門職員の名称（オ）	栄養士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（カ）	
上記専門職員の人数：	
施設設備の概要（ア）居室数：	
施設設備の概要（イ）設備等：	心理療法室
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

### ④理念・基本方針

<p>高風子供園は児童福祉法に基づき、乳児を除いて、保護者のいない児童、虐待されている児童、その他、環境上、養護を要する児童の入所を擁護することを目的とする。創設者、平野恒のキリスト教精神を継承し、社会的養護の基本理念、子どもの最善の利益のため、子どもの権利を守り、社会全体で育む養育をする。創設者のことは“おさなごにまなぶ”という姿勢を基本理念とする。</p>
---

### ⑤施設の特徴的な取組

<p>集団生活において必要な、感情をコントロールする力や問題解決能力を高めるために、セカンドステップ（SST）を導入している。また、性教育にも力を入れており、委員会を設置し自立を見すえ「生きる」という意味での生教育も実施している。半面で、個人を尊重し、個別の活動を増やすなど、子どもに寄り添った養育を心がけている。</p>
---

### ⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2015/4/1
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2016/2/4
受審回数	0回
前回の受審時期	

### ⑦総評

○昭和24年開設の歴史のある園だが、今年度始めに園長が交替した。園長以下若い職員が多いが、創設者の理念やこれまでの歴史を引き継ぎ、子どもたちに寄り添いながら、若いパワーと前向きな姿勢で子どもたちの支援を実践している。  
 ○家庭的な雰囲気の中、子どもたちは水泳や卓球などのスポーツに取り組み、リビングや居室で勉強し、担当職員とともに規則正しい生活を送っている。子どもたちの年齢に合わせて、一部屋の人数を少なくして、高校生は個室を使用できるように努めている。「安心」を最優先し、自分の居場所が確保できるよう配慮している。また、子どもたちの希望は可能な限り尊重し、改善が必要な場合には、職員全体で検討するようにしている。  
 ○職員が問題を一人で抱え込むことのないよう、基幹的職員に相談できる体制を整えている。子どもたちが職員に相談するのと同様、職員間でも相談し合い、信頼関係を構築している。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

生活の場において、日々のルーティンとなってしまう、見落とししていることも少なくありませんでした。そんな中、今回、第三者評価を受審したことで、職員一人一人が自身をふり返り、また、全体を確認する良い機会となりました。ありがとうございました。この度の気づきや反省を生かし、今後も、子どもたちのより良い養育を心がけ、日々、励んでまいりたいと思います。

⑥第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
【コメント】		
就業規則に、理念と基本方針を明記し、年度始めの職員会議で周知、徹底を行っている。また、事業計画も法人の理念に基づき作成している。職員会議と支援方針会議を月1回定期的に開催し、クラス会議は月2回開催している。クラス会議では、職員研修や事例検討も行っている。職員は、1年間の「スケジュール帳」をもとに、統一した支援を行っている。		

1

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
【コメント】		
法人の理事会には、園長、副園長、事務長が参加し、経営環境の把握、分析に努めている。法人本部において、5年間の経常収支の状況を算出し、報告している。園の現状として、光熱水費のコストが高いこと、職員数と子どもの数のバランスなどがあがり、改善につながるよう取り組んでいる。		

2

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a	3
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○	

【コメント】

光熱水費のコスト高に関しては、専門の業者にも相談し、より効率的なシステムの導入につなげている。また、子ども的人数に対して、職員の数も多いことから、子どもの積極的な受入れを、児童相談所に働きかけている。児童相談所からは、高齢児の相談が多く、受入れが難しい面もあるが、でき得る限り、受入れを行っている。

### 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果	4
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。		
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。		

【コメント】

子どもたちが、より家庭的な環境で生活を送ることができるよう、ユニット化の徹底や、グループホームへの移行などが必要と捉えている。グループホームは、現在1ヶ所あり、今後も具体的な計画につなげる必要がある。また、土地の契約更新に向け、園の建て直しも視野に入れた検討が必要と捉えている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	5
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。		

【コメント】

年度末に、総括会議を開催し、課題や反省点をあげ、次年度に反映させ、事業計画を作成している。単年度の事業計画には、具体的な数値目標は立てていないが、中・長期的な課題を踏まえ、子どもたちが、より家庭的な環境の中で生活を送ることができるよう配慮している。

(2) 事業計画が適切に策定されている。			6
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○	

【コメント】

年度末に、総括会議を開催し、課題や反省点をあげ、次年度に反映させ、事業計画を作成している。計画書の内容は、職員全体で検討し、事務長が事業計画書としてまとめている。子どもたちが、より家庭的な環境の中で生活を送ることができるよう、内容を検討している。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

7

【コメント】

事業計画書は、子どもたちや保護者には配布していないが、子どもたちには、事業計画書の内容を、ホワイトボードに記載して周知し、確認できるようにしている。また、保護者に対しては、月に1回、「高風だより」を発行、送付することで、計画の内容を伝えている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1)	質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的を受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

8

【コメント】

月2回開催するクラス会議や、支援方針会議、事例検討会の場において、養育・支援の質の向上に向けた検討を園全体で行っている。日々の支援の中で上がったヒヤリ・ハットも議題にあげ、対応策を検討している。受験に対して意識の低い子どももいるため、子どもの意識を高める取り組みも行っている。

②	9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

9

【コメント】

前年度、社会的養護関係施設のAタイプの自己評価表に、職員全体が取り組み、現状の改善点を共有した。今年度は、改訂された自己評価表に、職員全体で取り組んだ。特別支援学校に進む子どもを除いて、園で生活する子どもたちの多くが、高校進学に課題を抱えているため、自己評価結果をもとに、子どもたちの進学に対する意識を高める取り組みを行っているところである。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1)	施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○

10

<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/>	平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

今年度途中に、園長の交替があった。園長の年齢も若いことから、上からの目線ではなく、また指導的な対応を避け、職員の考えを尊重した関わりを行っている。園の伝統や理念、支援の方針を継承し、職員全体のバランスに配慮した関わりを実践している。

11

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

人権研修など、施設長向けの必要な研修に参加し、法令などの遵守に配慮している。また、園長が心理士なので、心理士としての研修会にも、年数回参加している。地域で月1回開催される施設長会にも定期的に参加し、遵守すべき法令などを把握している。また、市のごみ分別を、子どもたちに指導しながら、職員全員で積極的に行っている。園長自ら、使用していない居室の消灯を職員に声掛けし、省エネルギー対策に努めている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

12

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

月2回開催されるクラス会議には、基本的に園長も参加している。園長が心理士であることから、職員に対し、心理士としての立場からも、アドバイスを行っている。クラス会議や支援方針会議、職員会議にて、心理的コンサルテーションを提供するとともに、園内のスーパーバイザーとしての役割も担っている。

13

②	13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

経営の改善や業務の実行性の向上に向け、また、法人の理念や基本方針の実現に向け、法人と密に連絡を取って、相談し合う体制を整えている。園の職員とは、年3回、定期的に個別の面接を実施して、個々の目標の達成状況の確認や、仕事の継続の意思確認を行っている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果
-----------------------------------	-------------

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	14
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

グループ内に、女子短期大学があり、保育士の実習生を毎月、数名受入れている。受入れは、副園長を担当者としている。福祉人材の確保は、実習生の受入れ段階から始まっているとのことで、計画にもとづいた福祉人材の確保を行っている。ただし、調理員などの確保については難しい面もあり、地域や町内会とのつながりが大切と捉えている。里親専門相談員の人材が確保できるよう、主任保育士が研修会に参加している。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	a	15
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができてい	<input type="radio"/>	

【コメント】

キリスト教の精神に基づいて、期待する職員像を明確にし、就業規則や定款、管理規定などに示している。また、法人全体のパンフレットにも、創設者の言葉を掲げている。人事に関しては、法人本部の統括責任者に相談しながら対応している。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b	16
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

各クラスで作成した勤務表を管理職が確認している。土日曜日も、管理職が1人は必ず出勤するようにして、現場の状況を把握している。職員へは、公休日が確保できるよう配慮しているが、来年度以降は、有給休暇がきちんと消化できるよう取り組んでいく予定である。また、産休や育休、看護休暇や介護休暇が取れるように配慮していきたいとのことであった。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	17
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	<input type="radio"/>	

<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。	○
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

年度始めには、職員一人ひとりが、園長のアドバイスを受けながら、自己の目標を立て、年度末に自己評価している。管理者との個人面接を年3回行い、職員一人ひとりが設定した目標について、進捗状況を適切に確認している。面接時には、子どもの支援に関して、迷っていることも取り上げ、判断に迷うことにはアドバイスし、報連相を密に取るようにしている。

② 18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	18
<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○	
<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○	
<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○	
<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○	

【コメント】

研修計画に基づき、できるだけ多くの職員が研修に参加できるよう取り組んでいる。外部研修では、児童養護施設研究会が開催する研修会が毎月あり、参加者を指名したり、参加希望を募って、参加している。内部研修は、年数回実施し、今年度は防犯研修や人権研修を開催している。

③ 19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	19
<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○	
<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○	
<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○	
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○	

【コメント】

研修計画に基づき、できるだけ多くの職員が研修に参加できるよう取り組んでいる。常勤職員は、年3回は外部研修に参加できるよう計画している。法人の内部研修や園内研修には、パート職員も参加し、保育や心理の研修に取り組んでいる。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

① 20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	20
<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○	
<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	○	
<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○	
<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○	

【コメント】

グループ内に、女子短期大学があり、保育士の実習生を毎月、数名受入れている。受入れは、副園長を担当者としている。「業務実践の手引き」に「実習受入れ対応マニュアル」があり、マニュアルに基づき、実習生の受入れを積極的に行っている。訪問調査当日も、保育士の実習生が活動していた。

### 3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
法人のニュースレターを定期的に作成し、関係諸機関や寄附をもらった方に配布している。ニュースレターには、クリスマス会などの行事の案内も載せている。クリスマス会は、地域の中の関係のある人や、交流のある人に参加を呼び掛けるとともに、町内会やPTAにも、開催を伝えている。法人のリーフレットや施設概要にも、具体的な施設の活動を掲載している。		
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
法人本部にて、定期的に内部監査を実施している。事務、経理に関しても、会計事務所により、定期的な確認を行っている。園長が各クラスを回って、施設内の運営が適切に実施されているか、日々、確認を行っている。		

21

22

### 4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
職員が町内会の集まりに参加する他、子どもたちは、地域のもちつき大会や運動会、サンマまつりなどに参加している。地域の子供会や小中学校のPTAでは、職員が役員を担っている。施設の前には、市の公園があり、地域の子どもたちが遊んでいる。施設には、学校の友だちも訪れ、ホールで子どもたちとゲームなどを一緒に楽しんでいる。		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	

23

24



<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している	
<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。	○

【コメント】

ボランティアの受入れに関する基本方針は明文化していないが、ケースバイケースで積極的に受入れを行っている。現在、学習ボランティアや裁縫ボランティア、家事支援ボランティアが活動する他、子どもたちとサッカーや野球をして遊ぶボランティアも活動している。月1回、地域の小学校の校庭で、NPO団体が主催する催しにも、子どもたちが参加している。ボランティア活動に関わる保険や保障については、課題もある。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	25
<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○	
<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○	
<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○	

【コメント】

児童相談所とは、年1回、連絡会を開催する他、状況に応じて、カンファレンスを行っている。地域の小中学校とも、年1～2回、連絡会を開催し、職員が学校に出向いている。学年懇談会では、職員が施設の説明を行っている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

① 26 施設が有する機能を地域に還元している。	b	26
<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。		
<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。		
<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。		
<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	○	

【コメント】

前年度、ボランティアによるバイオリンコンサートを、園内のホールで開催し、併設している保育園の子どもや保護者に参加を呼び掛けた。バイオリンコンサートには、地域住民にも参加の呼び掛けを行った。災害時における地域の中の施設の役割について、今後は地域との連携を密に図っていく予定である。

② 27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	c	27
<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。		
<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。		
<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。		
<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。		
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。		

【コメント】

区の要保護児童対策協議会（地域の小学校、未就園児のつどい広場、病院、地域の警察署、スクールソーシャルワーカーなど）に参加し、地域の福祉ニーズの把握に努めている。今後は、地域の親子にセカンドステップの講習を行い、地域に向けた活動を展開していきたいと考えている。

### Ⅲ 適切な養育・支援の実施

#### 1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果	
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	28
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	<input type="checkbox"/>	
【コメント】			
「業務実践の手引き」に、理念や基本方針を明示し、新任研修や日々の支援を実施する際の根拠としている。また、施設内で年1回、12月の人権週間の期間に外部講師を招き、人権研修を行っている。人権研修では、児童養護施設の入所者であった当事者や弁護士などから話を聞いている。その他、神奈川県児童福祉施設関係の研修や、横浜市が開催する研修などに参加している。			
②	29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	a	29
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。	<input type="checkbox"/>	
【コメント】			
「業務実践の手引き」にて、プライバシーに配慮した支援を実践している。子どもたちから希望を聞き、居室にカーテンをつけたり、また女子専用の浴室の前には、錠やチャイムを取り付けたりするなど、様々な工夫を行っている。建物の構造上、中学生以下には実施できていないが、高校生はできるだけ個室で生活できるようにしている。また、幼児のおむつ交換は、必ず居室で行うよう配慮している。			
(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。			
①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a	30
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="checkbox"/>	

	○
--	---

【コメント】

入所に際して、情報提供のための施設パンフレットは、保護者用、小学校低学年用（妖怪ウオッチの絵を使用）、関係機関用の3種類を用意している。また、入所前の見学の際には、家庭支援専門相談員が窓口となり、居室で他の子どもと一緒におやつを食べるなど段階的に交流する機会を設けるなど、家庭的な雰囲気を味わい、安心して入所できるよう配慮している。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	○	
	<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○	
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○	

31

【コメント】

入所にあたっては、書面を用いて日課などを子どもや保護者に伝えている。入所後は、子ども、保護者（電話でのやりとり）から意見や希望を聞き、自立支援計画を作成している。本人の意思決定が重要になる高校進学については、事前に学校説明会に参加したり、見学するなかで、子どもたちが将来のことを考えられるよう支援している。これらの支援は、担当者が中心に行っているが、状況に応じて、他の職員も協力している。

③	32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○	

32

【コメント】

他施設への移行は、ほとんどない。家庭復帰については、幼児の場合、特に慎重に進めている。児童相談所と連携しながら対応するようにしている。また、退所後の1年間は、担当であった職員と外食したりする機会を作っている。毎年、12月のクリスマス会には、卒園者を招待し、同窓会を行うなど、これまでの関係性を大切にできるようにしている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者  
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b	
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どものへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○	

33

【コメント】

書面による満足度調査は実施していない。子どもたちの希望や意見は、直接話を聞くことが多い。内容によって、担当者、主任保育士、主任指導員、園長などに話をしてくるが、内容は担当者にフィードバックし、連携しながら対応している。訴えがほとんどない子どもについては、担当者が日頃より気持ちを確認するよう配慮している。居室ごとに開催する児童会で、あがってきた希望や意見を取り上げている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b	
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○	

34

<input type="checkbox"/>	苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
<input type="checkbox"/>	苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	○
<input type="checkbox"/>	苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。	○
<input type="checkbox"/>	苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。	
<input type="checkbox"/>	苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

園長を苦情解決の責任者とし、第三者委員も設置している。苦情の内容は、子ども同士のこと、職員に対することなど、様々である。各居室の前には意見箱があり、苦情は意見箱（園長しか見ることができず、個人情報保護に配慮）に入れられていたり、また各居室のおやつ時間の茶話会で上がったりする。内容によって、必要がある場合には、保護者に電話連絡をしている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b	35	
	<input type="checkbox"/>	子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。		
	<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/>	相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。		○

【コメント】

子どもたちからの相談は、個室での対応を心がけている。また、誰にでも相談できるようにしており、子どもたちは相談内容により職員を選択している。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	36	
	<input type="checkbox"/>	相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。		○
	<input type="checkbox"/>	対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。		○
	<input type="checkbox"/>	職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。		○
	<input type="checkbox"/>	意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。		○
	<input type="checkbox"/>	職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。		○
	<input type="checkbox"/>	意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。		○

【コメント】

子どもたちは、担当者ばかりでなく、相談内容によって、園長や主任保育士などに相談をしてくる。子どもたちの意向（他の人には言わないでほしいなど）に配慮しながら、担当者にフィードバックしている。クラス会議などで、それらの相談や意見を共有し、対応している。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果	37	
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b		
	<input type="checkbox"/>	リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。		
	<input type="checkbox"/>	事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。		○
	<input type="checkbox"/>	子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。		○
	<input type="checkbox"/>	収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。		○
<input type="checkbox"/>	職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○		

<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○
--	---

【コメント】

月2回のクラス会議で、ハード面及びソフト面のヒヤリ・ハット事例を共有し、対処方法について協議している。対処方法は記録し、今後の支援につなげている。リスクマネジメントに関する委員会はないが、園長を責任者として、主任指導員や主任保育士が、リスク管理について相談したり、指示する体制を作っている。

38

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	○

【コメント】

各フロアに、感染症発生時の対応方法と、嘔吐処理キットを置いている。ノロウイルスなどの流行時には、予防方法について、栄養士から職員への周知を行っている。インフルエンザは、予防接種を行っている。感染症発生についての情報収集としては、横浜市からのメール配信システムを利用し注意喚起している。また、子どもたちに対しては、すまいりークラブ（生性教育委員会）を中心に、紙芝居を手作りし、衛生についての知識を伝えている。児童養護施設研修会に救急救命法の研修会があり、毎年、2～3人の職員が参加している。消防署員から、救命方法やAEDの使用方法を学んでいる。

39

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	○

【コメント】

「緊急連絡網」を作成（職員が出勤できない場合の緊急連絡者を2名置いている）し、避難訓練を毎月実施している。定期的に行われる地域の防災訓練にも参加している。また、食品などの備蓄品のリストを作成し、管理している。園内で行われる避難訓練については、地域の住民が参加するまでには至っていない。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果	
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

40

職員の意見を集約し、「業務実践の手引き（マニュアル）」を作成している。「業務実践の手引き」により、標準的な支援を確認している。また、園長、主任指導員、主任保育士が、日々の支援についての報告・連絡・相談を受けるなかで、助言や指示を出し、統一した支援を提供できるようにしている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="radio"/>

41

【コメント】

「業務実践の手引き」の各項目については、職員の意見などをもとに、必要に応じて見直しを行っている。子どもたちの多様化に合わせて、全体的な見直しをする必要があると感じている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="radio"/>

42

【コメント】

年2回、担当者と子どもが話し合い、自立支援計画の策定、評価を行っている。支援困難ケース（ルールを守ることができない、門限が守れないなど）については、月1回の事例検討会議の場で、職員間で支援の検討を行っている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	<input type="radio"/>

43

	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	
--	---	--

【コメント】

自立支援計画は、児童相談所との連絡会議の場でも報告し、助言や指導を受けている。また、子どもたちの様々な状況に合わせて、随時、内容を変更できるように、柔軟な対応を行っていきたいと思っている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	<b>44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。</b>	a	
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○	
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○	

44

【コメント】

毎朝の連絡会で情報を共有し、連絡会に参加できなかった職員は、記録を確認している。日々の支援状況については、業務日誌を活用し、各職員が内容を把握している。また、毎月期日を決めて、育成記録（パソコンに入力）を、主任保育士が担当している。課題として、物理的な環境もあるが、パソコンのネットワーク化が必要であると感じている。

②	<b>45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。</b>	a	
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○	

45

【コメント】

「業務実践の手引き」に基づき、記録類の管理を行っている。ケースファイルは、事務所内の鍵のかかる場所で管理し、閲覧は事務所内で行い、持ち出しは禁止している。また、行事写真などは、肖像権及び個人情報の取り扱いについて、入所時に保護者と子どもに説明し、同意する場合には「肖像権及び個人情報の取り扱い同意書」にサインをもらっている。

内容評価基準（41項目）A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果	
①	<b>A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。</b>	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。	○

A1

【コメント】  
 クラス会議での報告や検討、年度末の総括会議での報告や検討を通し、職員間の共通理解を図っている。また、職員間で、子どもの養育や支援について自由に話し合う機会を多く持てるよう配慮している。

②	A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a	A2
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>	

【コメント】  
 子どもたちに対して、出生や生い立ちを伝える場合には、児童相談所と連携し、場合によっては、家族にも協力を依頼している。日々の支援を通し、子どもの様子を確認しながら行っている。また、伝えた後は、職員には会議で報告し、また親に対しても、電話で子どもの様子を報告している。

(2) 権利についての説明

①	A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	a	A3
	<input type="checkbox"/> 定期的に全体場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	<input type="radio"/>	

【コメント】  
 子どもたちに対して、権利に関する情報提供を行っている。子どもの権利ノートは、小学校にあがったら、個人のスペースで保管している。日々の支援のなかで、セカンドステップ（SST）などで、自分自身の行動のあり方や、他者との関わりの際の自分自身の気持ちなどを自己覚知できるようにしている。職員には、年1回、当事者や弁護士、保健所などの外部講師を招いて、人権研修を実施している。

(3) 他者の尊重

①	A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a	A4
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別にふれあう時間を確保している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するように支援している。	<input type="radio"/>	

【コメント】  
 子ども同士でトラブルがあった際には、振り返りを行う機会を設け、自分の気持ちの整理だけではなく、相手の気持ちを考えられるよう支援している。セカンドステップ（SST）を導入し、日々の支援のなかで用いている。また、生活場面で、重いものを持っていると、男子の方から声をかけてくれるが、力仕事は男子の役割というような区別はしていない。皆が協力体制をとっていきような関わりを行っている。

(4) 被措置児童等虐待対応

①	A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a	A5
	<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。	<input type="radio"/>	



<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。	<input type="radio"/>

【コメント】

「就業規則」に基づき、虐待行為の禁止を徹底し、支援している。万が一、虐待行為があった場合には、厳正処分を行うこととしている。また、CAPやアンガーマネジメント講習を行い、感情的にならず、言葉を選んで声かけが行えるよう努めたり、人権研修に参加して、体罰等を行わないよう、周知徹底している。

②	A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a	A6
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、定期的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

CAP講習を受け、施設内で適宜行えるようにするため、リーダー研修も行っている。また、具体的な関わり方については、ヒヤリハット事例をもとに、職員間で内容を共有したり、不適切な関わりがないように、相互に指摘できる関係性の構築に努めている。

③	A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a	A7
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

児童福祉法における被措置児童虐待に対する支援のあり方に基づき、職員会議で周知、徹底している。子どもの安全と安心を守る養育ブックを職員に配布し、対応の手引きとしている。また、園内外の人権研修において、学ぶ機会を設けている。

(5) 思想や信教の自由の保障

①	A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	a	A8
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設において子どもの思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

キリスト教の精神に基づき、法人運営を行っているが、子どもたちへの信教は強制していない。日曜学校も希望する子どもが参加するなど、子どもの思想や宗教の自由に関して、配慮や保障をしている。

(6) こどもの意向や主体性への配慮	①	A9 こどものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受け止め、不安の解消を図っている。	a	A9
		<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。	○	
		<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。	○	
		<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。	○	
		<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。	○	

【コメント】

入所前には、事前に施設に来てもらい、他の子どもと遊んだり、おやつを食べたりしながら、入所までの準備をしている。担当職員を決める際には、子どもの特性や背景を考え、担当職員に配慮している。また本人の心が和らぐもの、例えば、ぬいぐるみや好きな食事のメニューなどを用意したりしている。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活	②	A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	a	A10
		<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	○	
		<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。	○	
		<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○	

【コメント】

子どもたちの希望を可能な限り尊重し、改善が必要な場合には、担当者だけでなく、職員全体でフォローしている。また、各居室で開催される子ども会議では、子どもの意見を聞き、日課を組み立てるようにしている。門限については、男女や、中学生と高校生では異なっており、子どもたちから変えてほしいとの希望がある。変更まで時間がかかるものもあり、その旨、子どもたちに伝えている。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活	①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	a	A11
		<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。	○	
		<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。	○	
		<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。	○	
		<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	○	
		<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。	○	
		<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	○	

【コメント】

パソコンは、各自が使いたい時間をホワイトボードに記入して使用している。ゲームについても、休憩時間は設定しているが、本人の希望にそって使用できるようにしている。また、12月のクリスマス会や招待行事への参加についても、子どもたちの希望を優先して参加している。地域活動として、「はまっこ」学校に希望する子どもが参加している。日々の生活の中で、職員が子どもたち個々の希望を聞き、できることは実行しているが、できないことは、何故できないかをきちんと説明し、納得してもらっている。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活	②	A12 こどもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b	A12
		<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。	○	
		<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。	○	
		<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。	○	
		<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。	○	

【コメント】  
子どもたちがこずかいを計画的に使えるよう「こずかい帳」をつけたり、将来へ向けての貯蓄の必要性について話しながら、使い方を考えられるように支援している。また、児童手当は自立のために貯蓄しているが、本人の希望により習い事の月謝にしたり、大学進学の際の資金にするなど、目的をもって使用している。

(8) 継続性とアフターケア			
①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	b	A13
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。		

【コメント】  
児童相談所と相談しながら、退園後1年間の支援計画を作成している。退園後は、児童相談所と連携しながら関わっているが、内容は業務連絡日誌に記録している。退園後、必要に応じて、担当であった職員と食事に行ったりするなど、フォローを行っている。12月のクリスマス会はホームカミングデーとして、退園したすべての子どもに案内をしている。

②	A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a	A14
	<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○	

【コメント】  
子どもの将来を共に考え、高校を中退し、入り直しをした子どもについては、措置延長をしている。また、就労支援については、NPO団体の協力を得て、職業適性を受け、それにそってハローワークに同行するなど支援を行っている。

③	A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a	A15
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○	

【コメント】  
クリスマス会には、退園した子どもたちや、様々な支援団体を招待し、その際に、卒園者の状況を把握している。同窓会も適宜開催し、退園者と子どもたちが交流できる機会を設けている。

## A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果	
①	A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a	A16
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○	

<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
<input type="checkbox"/> 子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	

【コメント】

子どもの理解と受容を目的に、支援方針会議を月に2回開催し、支援内容の見直しや検討を行っている。被虐待が傷になり、他者との距離感がうまくつかめない子どもや、空気を讀むのが苦手な子どもがいる。職員の熱意や思いだけに頼ることなく、心理職と連携をとりながら、CAPやセカンドステップの研修を、繰り返し子どもと職員が行い、相互理解や問題の解決、感情のコントロールをともに学び続けている。職員間の信頼関係が構築され、子どもからの信頼も芽生えている。

②	A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a	A17
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。	○	
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○	
	<input type="checkbox"/> 高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	○	
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めるとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○	

【コメント】

家庭的な雰囲気の中で、子どもたちは担当職員とともに規則正しい生活を送っている。年齢に合わせて、一部屋の人数を少なくし、高校生は個室を使用している。「安心」を最優先し、自分の居場所を確保できるよう配慮している。幼児や小学生の希望を聞き、担当職員が隣りに布団を並べ一緒に就寝している。子どもたちは、清潔な身なりで好きな洋服、好きな髪型、好きな持ち物を持って穏やかに過ごしており、過剰な管理はしていない。子どもが困った時は、職員と一緒に問題の解決方法を探り、話し合いを行い、信頼関係を深めるようにしている。

③	A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b	A18
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	○	

【コメント】

年齢が上の子どもは、できるだけ行動を見守り、必要に応じて援助を行うよう配慮している。一方、子どもたちに躓きや失敗の経験をさせたくない職員の思いもあり、課題としている。小さい子どもの失敗や喧嘩を、頭ごなしに叱りつけることなく、冷静に対応できるよう、職員は研修を積んでいる。朝、夕の忙しい時間には、職員の配置を多くしている。ユニットごとの土曜日の自由献立調理や、ケーキやクッキー作り、園内の多様なクラブ活動の取り組みなどで、子どもたちそれぞれの成長を促している。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a	A19
	<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発達状況に応じたプログラムの下、実施されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。	○	

<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

各ユニットのリビングには、年齢に合った図書やボードゲーム、ビデオを置いている。プレイルームでは、幅広い年齢の子どもたちが一緒にクラブ活動をしたり、遊具で遊んだり、自分のおもちゃ箱を取り出して遊んでいる。クラブ活動(野球、水泳、卓球、マラソン、トーンチャイム、フラダンス)が盛んであり、競技でメダルを多くの子どもが獲得し、子どもたちの自信につながっている。ゲーム機やスマートフォンなど、高価な物や生活を乱す誘惑の強いものに関しては、年齢制限を設けたり、夜間は職員が預かるなど、子どもたちと話し合っ取り決めていく。

⑤ A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a	A20
<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。	○	
<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	○	
<input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上で必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○	
<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。	○	

【コメント】

明るく、落ち着いた雰囲気の中で、秩序ある生活が営まれている。子どもたちは人懐っこく、素直に育っている。ルールに関する貼り紙は少なく、落書きなどもみられない。子どもたちには、園の手伝いを通して、生活技術を習得できるよう促している。社会常識については、子どもと一緒にテレビを見て、話題にあげたり、日常生活の中で自然に学べるようにしている。子どもたちは、子ども祭りなどの町内会行事にも積極的に参加している。

(2) 食生活

① A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a	A21
<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。	○	
<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○	
<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気で、常に清潔が保たれている。	○	
<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能できるよう工夫している。	○	
<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	○	
<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎える際の食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	○	

【コメント】

以前は、食堂で一斉に食事をしていましたが、現在は、ユニットごとに座卓を囲んで食事をしていく。ユニットごとに、家庭サイズの炊飯ジャーでご飯を炊き、味噌汁を作っている。おかず類は皆で厨房からユニットに運び、皿に盛りつけている。ご飯の炊ける匂いや、味噌汁の香りを大切にしている。夕食時間は決まっているが、部活で遅くなる子どもの分は取り置いてあり、温め直している。食事中は、学校での出来事を話すなど、コミュニケーションの時間として大切にしている。誕生日の子どもには、好きなものを手作りする他、子どもの希望に応じて宅配ずしや宅配ピザを提供している。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a	A22
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	○	
	<input type="checkbox"/> 少数の子どもを対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。	○	

【コメント】

子どもたちの食事の感想は、検食簿（給食日誌）に記録し、給食会議などで、栄養士や調理員と内容を検討している。同じ食材でも、切り方や味付けを工夫し、子どもたちが満足できるよう検討している。食物アレルギーをもつ子どもが2人おり、医師と相談しながら調理し、食器の色を変えて間違いのないようにしている。子どもたちが学校へ持っていくお弁当は、個々に対応している。病児には、うどんやお粥を提供している。ユニットで余ったご飯を冷凍しておき、おにぎりやチャーハンにして、夜食で食べることもある。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a	A23
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	○	
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつの摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。	○	
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	○	
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	○	

【コメント】

献立表を厨房やユニットのキッチンに掲示している。土曜日の昼食は、ユニットごとの自由献立で、子どもたちと献立を決め、一緒に買い物に行っている。女子は自分で本で調べて、クッキー等のおやつ作りを楽しんでいる。偏食のある子どもには無理強いせず、少量から食べるように声かけし、体形を気にしている女子には、細い女子が必ずしも良いとは男子は思っていないなどの情報を伝え、頭ごなしに強制したりしないよう配慮している。個々のおやつ箱があり、食事の他は、自由な時間に食べることができる。エジソン箸で練習したり、一点食べや肘をついて食べないように、その都度、職員が声かけしている。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a	A24
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○	
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体にあつたものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○	
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○	

【コメント】

子どもたちは、自分の好みの服を自由に選んで着用している。衣服は子どもたちと一緒に買いに行ったり、カタログから選んでいる。季節外れの服を着てしまう子どもや、同じ服ばかり着てしまう子どもがいるので、適切な服を選べるよう、職員がフォローしている。また、ミニスカートやタンクトップなど、刺激的な服装は避けるよう、注意している。アイロンがけは職員が行い、週1回、ボランティアが裾上げや縫いを支援している。靴の傷みやサイズにも注意するようにしている。防寒具や手袋、マフラーなどの小物も、子どもたちと相談し、希望に沿えるようにしている。

(4) 住生活

①	A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b	A25
	<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

玄関や階段脇に花を活け、子どもたちの絵や写真を壁に飾っている。食堂や各ユニットの居間には、本棚やビデオ、テレビ、オセロなどのゲームがある。ルールを書いた貼り紙は少なく、落書きやシールの痕もない。ユニットごとに、清潔で明るいトイレや洗面所がある。洗面所のコップや歯ブラシ、タオルは個人別であり、名前やマークが付いている。土日は、共有の場（洗面、浴室、トイレ、リビング）の掃除を子どもたちもやっている。

②	A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a	A26
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

居間には、子ども一人ひとりに座椅子を準備し、適度な距離を保てるようにしている。また、他の子どもの部屋に入室することは禁止している。小学校高学年や中学生は2～3人部屋だが、ベッドと学習机、タンスが一体になった家具を配置し、一人ひとりの空間を確保している。職員が子ども部屋に入室する時は、声かけノックをし、返事を待って入室している。男性職員が女子の棟に入る時は、「失礼します」と言うから入っている。女子棟の浴室出入り口には、センサーを付け、チャイムが鳴るようにしている。高校生は同一敷地内の戸建ての家に移り、個室を持ち、共同生活を送っている。自転車は自分専用のものを使い、貸し借りをしないようにしている。

(5) 健康と安全

①	A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	b	A27
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。	<input type="checkbox"/>	

<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。	○

【コメント】

幼児は、毎日検温して健康状態を観察している。子どもたちの約5分の1が障害の手帳を保持し、ボーダーの子どもを含めると、3分の1の子どもに学習や生活に課題がみられるため、本人からの訴えがなくても、健康状態に気をつけるようにしている。布団干しやシーツ・寝巻交換は、定期的に行っている。手洗いやうがいの習慣を、幼児のころから身につけられるよう働きかけている。小学校高学年以上の子どもには、自らみだしなみを気にかける習慣がつくよう声かけしている。CAP等の研修を、年齢に応じて何度か受けることで、自分の身を守ることを学んでいる。自転車の交通ルールも教えている。

② A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a	A28
<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的な子どもの健康管理に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	○	
<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○	
<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○	

【コメント】

体調不良時は、病院への受診を最優先し、悪化を防止している。耳鼻科や歯科、皮膚科の受診も、迅速に対応できるようにしている。インフルエンザ予防接種は、職員、子どもとも接種している。服薬管理は職員が行い、一包化された薬に、名前や日付、時間を書き、薬カレンダーにセットし、名前を読み上げて確認しながら与薬している。また、嘱託医とは常に連携を取っている。子どもたちは、月1～2回、病院に定期通院している。毎年、心肺蘇生法の講習を職員が順番に受けている。年に1度は児童精神科、臨床心理士の医療機関からコンサルテーションを受け、具体的なケースをあげて相談している。

(6) 性に関する教育

① A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a	A29
<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者との付き合いができるよう配慮している。	○	
<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○	
<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。	○	
<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○	

【コメント】

すまいるークラブ（性生教育委員会）を開催し、対応方法を職員が学んでいる。命の重さ、大切さを伝える“生”に関して、横浜市の保健師と一緒に教育の機会を持っている。他者との距離が近すぎる子どもには、具体的に腕を伸ばしたぐらいの距離を取るよう教えている。性は質問してきた時がチャンスととらえ、正しい知識を伝えるようにしている。CAP講習会を毎年行っているため、被害防止方法が子どもたちに浸透している。異性との交際について、相談しやすい雰囲気を作り、妊娠や避妊についても正確に教えている。異性との交際を禁止して、内緒にされたり、隠したりすることのないよう配慮している。生理になった子どもがいた時は、お赤飯を炊き、ユニットでお祝いし、オープンに話ができるようにしている。

(7) 自己領域の確保

① A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a	A30
<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。	○	
<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○	



<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

小学校高学年からは、お箸やご飯茶碗は自分専用のもの使っている。子どもたちには、個別のおやつ箱があり、自分のおやつを入れている。幼児は個別のおもちゃ箱を持ち、他の子どものおもちゃを勝手に使うことがないようにしている。幼児のタンスの整理は職員が行っているが、小学生になると、自分で管理している。タオル類も共有にはせず、一人ひとり決めている。自転車やゲーム、携帯電話の貸し借りは禁止し、高価なものは夜間、職員が預かっている。片づけが苦手な子どももいるので、職員と一緒に考えながら行っている。

② A31 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	<input type="checkbox"/>	b
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生き立ちの整理につながっている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録(アルバム等)を整理している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録(アルバム等)が手渡されている。	<input type="checkbox"/>	

A31

【コメント】

年2回、生き立ちを整理する機会を設けている。子どもたちが知りたいことがあれば、答えられることは答えて、わからない部分は、児童相談所に確認して、子どもたちに伝えている。アルバムは、一人ひとりに作成しており、いつでも見ることができる。学校の行事写真は必ず購入し、アルバムに入れているが、思春期の子どもは写真を嫌がることも多い。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

① A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	<input type="checkbox"/>	a
<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="checkbox"/>	

A32

【コメント】

問題行動がみられた際は、できる限り子どもに寄り添い、対応するようにしている。CAPやセカンドステップの研修を繰り返し行い、相互の理解、問題の解決、怒りの扱いに関する意識を高めている。現在、いじめなどの深刻な問題は起きていない。ちょっとしたからかいでも、わかった時点ですぐに対応している。相談や話し合いは、子どもたちが納得できるまで行っている。子どもたちには、職員にはつげ口ではなく相談として伝えてくるよう指導している。問題が起きた時には、かならず双方にフィードバックするようにしている。関連機関との連携も行っている。

② A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>	a
--	--------------------------	---

A33

<input type="checkbox"/>	□人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。	○
<input type="checkbox"/>	□問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	□生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
<input type="checkbox"/>	□課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
<input type="checkbox"/>	□大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっていいる。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○

【コメント】

子どもたちには、部屋の往き来を禁止し、安心した生活を送れるよう配慮している。朝と夕方には、パート職員を配置し、職員配置を厚くしている。また、土日也必须事務職員が出勤するようにしている。プレイルームでは、子どもたちの遊びやクラブ活動が盛んであり、幅広い年齢の子どもがともに活動し、年長の子どもが小さい子どもの世話をする場面もみられている。子どもたちの相性、関係性を考え、居室を構成している。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	a
<input type="checkbox"/>	□強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。	○
<input type="checkbox"/>	□引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。	○
<input type="checkbox"/>	□緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	○
<input type="checkbox"/>	□強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされている。	○

A34

【コメント】

児童相談所と相談しながら、保護者への対応を行っている。親が怖い、外泊したくない、電話に出たくないという子どももいるので、職員が保護者との対応を行っている。施設への出入りを断っている保護者もいるため、保護者の訪問には、職員が複数で対応している。引き取りを目指している子どもは、プログラムに合わせて外泊を重ねて進めている。外泊帰宅後は、子どもの話をよく聞き、状況を把握している。子どもの側から、親に会いたいという希望があった時は、施設の行事に親を招待したり、手紙を出したりしている。警察との連携を密にとり、帰宅時間が遅くなった子どもの安全確認を怠らないようにしている。

(9) 心理的ケア

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	□心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
<input type="checkbox"/>	□施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
<input type="checkbox"/>	□心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
<input type="checkbox"/>	□必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	○
<input type="checkbox"/>	□心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。	○
<input type="checkbox"/>	□児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

A35

【コメント】

園長が心理士であり、心理面接を重ねている。心理療法室は、時間を決めて面接の場としてのみ使用している。被虐待が傷になり、他人に威圧的であったり、空気が読めない子どもがいるので、自立支援計画に位置付けて、心理的ケアを行っている。児童相談所に通っている児童もいるので、児童相談所の心理士とも連携し、助言や指導を受けている。1年に1度、子ども医療センターの児童精神科医や臨床心理士と事例検討会を開いている。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	□静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○

A36

<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

子どもたちは、リビングで勉強していることが多い。小学生は夕方の決まった時間に宿題や勉強をして、翌日の準備を行っている。「学校準備確認表」にて、職員と一緒に、準備を行っている。子どものレベルに合わせて、学習ボランティアが個別についているが、ボランティアの更なる開拓が必要で、今後の課題としている。また、児童手当を利用して、公文教室や進学学習塾に通っている子どももいる。学力の低い子どもについては、学校の担任と連絡を密にとり、個々の学力に合わせて支援を検討している。漢字や計算ドリルの自主勉強もすすめている。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a	A37
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	○	
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。	○	

【コメント】

中学校1年の頃から、進路について検討を始めている。高校受験の子どもは、職員と一緒に多くの高校の見学に行っている。高校卒業後は、資格取得に繋がる専門学科への進学を奨励している。専門学校や夜間大学への進学を検討し、子どもにとって、最善の利益につながるよう支援している。子どもたちも、卒園や退園後のアフター、自立支援の「横浜ポートフォア」や「あすなるサポートセンター」の食事会や集まりに参加し、先輩からの話を聞いている。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a	A38
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○	
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○	

【コメント】

高校生になると、週に2～3日のアルバイトをしている。特別支援学級の子どもも、皿洗い等の短時間のアルバイトをしながら、社会経験をつんでいる。アルバイト先は、協力事業所などに依頼している。在学中に取得できる各種資格や漢字検定等に取り組むことを奨励している。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a	A39
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○	

<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

保護者の相談は児童相談所が窓口になり、子どもからの相談は園が担当している。保護者宅への外泊については、子どもの気持ちを尊重し、無理な外泊につながらないようにしている。外泊からの帰宅後は、担当職員が子どもの様子を注意深く観察し、子どもからの話をよく聴いている。引き取りに関しては、家庭支援専門相談員が中心に対応し、保護者と定期的に連絡を取り合っている。引き取りまでの支援を、念入りに準備しながら進めるようにしている。学校行事は保護者に早めに知らせ、特に、入学・卒業式をはじめ、授業参観や運動会の親子参加が実現するよう働きかけている。

(12) 親子関係の再構築支援

① A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a	A40
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○	
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○	
<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○	

【コメント】

月に1回、親子関係についての事例検討会議を開き、検討している。児童相談所とも連携し、子どもと保護者の交流を定期的に行っている。昨年は18歳前に親元に戻った子どもが11人いたが、園に残る子どもの心のフォローも大切にしている。できる限りの準備をしても、うまくいかなかった現実もあるが、一度は親元に戻るのが良いと認識している。子どもたちが、自立に向かって遅く次の一歩を踏み出せるよう支援している。

(13) スーパービジョン体制

① A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	a	A41
<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。	○	
<input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定期的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。	○	
<input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。	○	
<input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。	○	

【コメント】

職員が問題を一人で抱え込むことのないよう、基幹的職員に相談できる体制を作っている。子どもが職員に対し相談し、話し合うのと同様、職員間でも相談し合い、信頼関係を構築している。職員会議は月1回3時間かけて行っている。支援方針会議を月2回、クラス会議を月2回開催する他、職員の研修参加も活発に行っている。